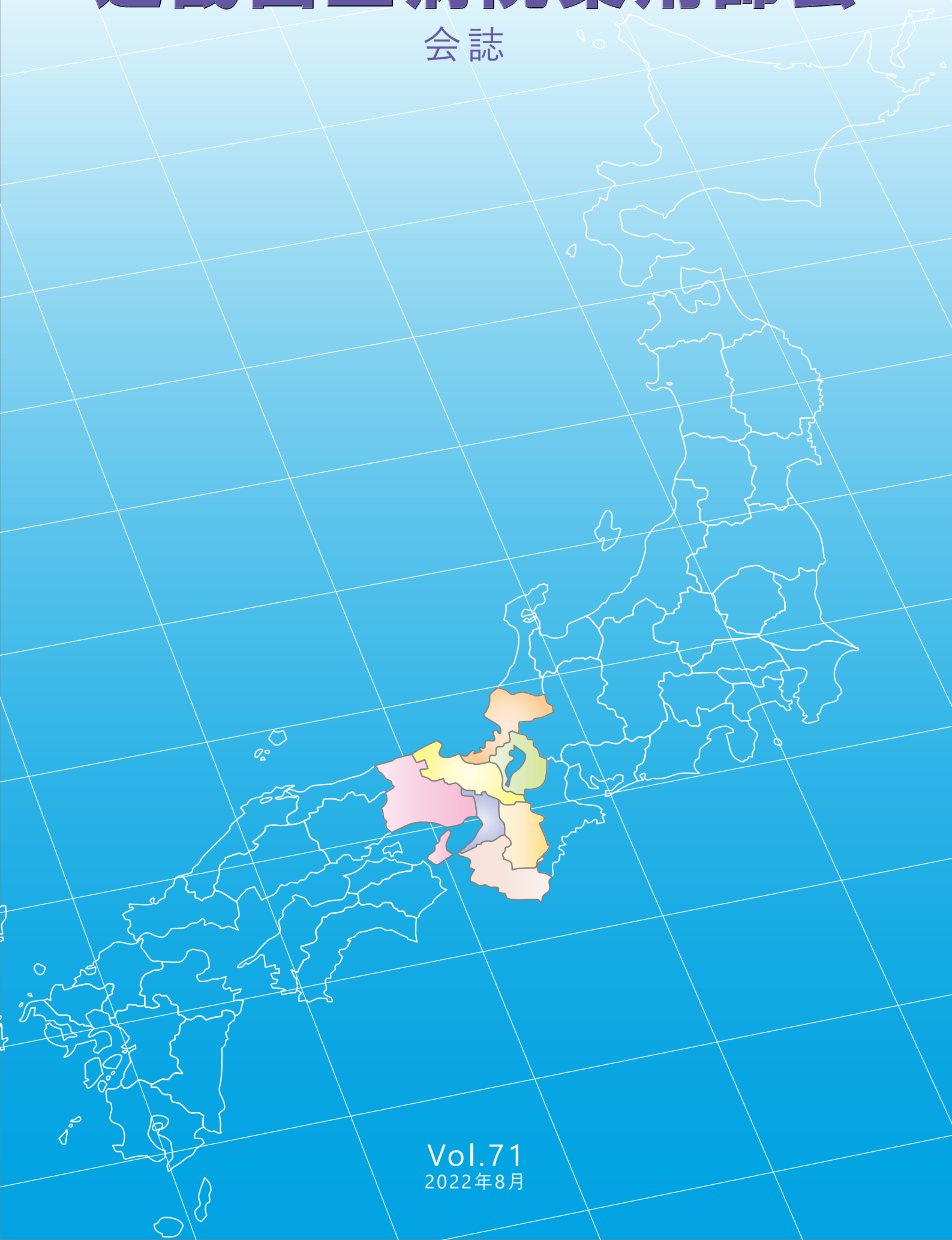


近畿国立病院薬剤師会

会誌



Vol.71
2022年8月

目 次

提言.....	2
	舞鶴医療センター 宮部 貴識
薬剤部紹介.....	3
	舞鶴医療センター 原 伸好
第 17 回近畿国立病院薬剤師会学術大会 受賞報告.....	5
	近畿中央呼吸器センター 多方 実彩 舞鶴医療センター 多田 純平
第 17 回近畿国立病院薬剤師会学術大会 参加報告.....	7
	やまと精神医療センター 今本 京大
「第 15 回 日本緩和医療薬学会年会」参加報告	8
	神戸医療センター 永井 詩織
趣味のページ	9
	京都医療センター 稲田 顕慶
編集後記.....	10

提言

舞鶴医療センター 宮部 貴識

社会人基礎力という言葉をご存じでしょうか。人それぞれの解釈のあるどこか当たり前のような言葉ですが、2006年に経済産業省により提唱されたこの言葉をご紹介します。この社会人基礎力とは、「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力から構成されており、職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力とされています。「前に踏み出す力」は、一人称で物事を捉え、自ら行動できる、失敗しても粘り強く取り組む力、「考え抜く力」は、自ら課題提起し、解決のためのシナリオを描く、自律的な思考力、「チームで働く力」は、多様な人々との繋がりや協働を生み出す力といわれています。チームで働く力は、グループ内の協調性だけに留まらず、相手の意見を丁寧に聴く傾聴力、意見の違いや相手の立場を理解する柔軟性、自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する状況把握力をもって多様な人々とともに、目標に向けて協力する力といわれています。当時発表された社会人基礎力は人生100年時代においてその重要性を増し、現在ならではの切り口や視点も必要となってきました。

薬剤師の役割の発揮に向けて「対物業務から対人業務へ」が提唱されるようになり、薬剤師職能は調剤中心であった時代から、服薬指導、薬剤管理、そして処方意図の解析・提案、リスクマネジメント、多職種連携へと大きく変化してきました。臨床疑問への解決に向けて研究業務も飛躍的に進んでおり、海外ではエビデンス構築に向けた研究者としての能力を兼ね備えることも理想的な“8つ星薬剤師”といわれています。

業界等の特性に応じた能力である薬学的知識経験を「アプリ」と例えるなら、社会人としての基盤能力は「OS」であり、新たな専門スキルを獲得するだけでなく、アプリとOSの両方を常に“アップデート”し続けていくことが求められていると思います。

今後さらに対人業務が進んでいく中で、医療の現場で働く薬剤師としてのパフォーマンス向上には、専門的スキルだけでなく人としての基礎力もさらに求められるようになってくるかもしれません。サステナブルだけでなくさらなる向上に、頑張っていきましょう。



薬剤部紹介
独立行政法人 国立病院機構

舞鶴医療センター

【病院概要】

舞鶴医療センターは、京都府北部の若狭湾に面した舞鶴市にあります。舞鶴市は、港湾都市であり週3回舞鶴港より北海道の小樽港行きのフェリーが発着しています。また、舞鶴港では、第二次大戦後の昭和20年10月より昭和33年まで13年間にわたり海外(旧満州、中国、樺太、千島列島)からの引揚者66万人を迎え入れた歴史をもっています。

当院は、明治34年に舞鶴鎮守府の海軍病院として創設され、昭和16年に現在の地に移転されました。終戦後は、舞鶴鎮守府病院として引揚患者の上陸第一病院に指定され、引揚患者の収容治療や転送の第一業務を担いました。このように近代日本史とともに歩んできた歴史的背景をもつ病院ですが、平成16年4月の国立病院の独立行政法人化に伴い、「独立行政法人国立病院機構舞鶴医療センター」に名称変更され現在に至ります。

当院の特徴ですが、精神科病棟(病床数120)を持つ精神医療に関する基幹医療施設であり、国立病院機構近畿グループの医療施設の中心的役割を担っています。また、SCU6床を有し、京都府中丹医療圏における救急センターとしての機能も果たしています。その他、京都府がん診療連携病院、エイズ治療拠点病院、認知症疾患医療センターにも指定されており、京都府北部だけでなく北近畿・若狭地方西部における地域中核病院として機能しています。



【薬剤部概要】

薬剤部は薬剤部長、副薬剤部長、主任 4 名（調剤主任、薬務主任、治験主任、製剤主任）、薬剤師 7 名、薬剤助手 2 名の 15 名で構成されています。当センターでは平成 26 年 9 月より SCU、NICU、精神科急性期病棟を除く 7 病棟に専任薬剤師を配置し、病棟薬剤業務実施加算の算定を開始しました。平成 29 年 4 月からは、SCU、NICU に対して病棟薬剤業務実施加算 2 の算定を開始し、急性期病棟においても薬剤師の職能を生かすべく活動を開始しています。院内の多岐にわたるチーム医療（PCT、ICT、NST、認知症ケアチーム、褥瘡、嚥下）にも積極的に参画しており、多職種との連携強化も図っています。平成 30 年には、原子力災害対策整備が完了、緩和ケア病棟の運用開始、脳神経センター部が新設されました。同年の入退院センター運用開始に伴い薬剤師による患者面談を行い、手術時や検査時に中止する医薬品の確認を行い地域薬局と連携しシームレスな薬剤管理に努めています。令和 3 年 5 月よりがん薬剤師外来を開始し外来でがん化学療法を受ける患者さんへの治療支援を行っています。同時期より連携充実加算の施設基準を取得し、外来がん化学療法の質の向上と、保険薬局との連携を強化する目的で、治療レジメンの内容などを記載した情報提供書を患者に配布して、保険薬局や当院職員を対象にした研修会を定期的に開催しています。地域の保険薬局と連携して安全な薬物療法にも貢献しています。「疑義照会事前同意プロトコル」を導入し、処方変更については、代行修正を行い、医師の業務負担軽減に貢献しています。また、日本病院薬剤師会がん薬物療法認定薬剤師研修事業の研修受け入れ施設として、教育研修にも努めています。当院の薬剤師は舞鶴市薬剤師会にも所属し、近隣の病院薬剤師や薬局薬剤師と親睦を図りながら薬薬連携にも取り組んでいます。さらには、舞鶴市教育委員会より当院の 5 名の薬剤師が学校薬剤師として委任されており、学校環境衛生の向上や改善に貢献すべく活動しています。

（文責：原 伸好）



第 17 回近畿国立病院薬剤師会学術大会 受賞報告

近畿中央呼吸器センター 多方 実彩

令和 4 年 7 月 9 日に開催されました近畿国立病院薬剤師会学術大会の受賞報告をさせていただきます。

私は 2021 年 4 月に近畿中央呼吸器センターに配属され、現在 2 年目の薬剤師として、肺がん病棟を中心に病棟薬剤業務を行っております。当院は肺がん治療における大阪府のがん治療拠点病院に指定されており、抗がん剤の初回説明や副作用モニタリング、支持療法の提案など、多くの患者さんの肺がん治療に関与しております。日々の病棟業務を行う中で、食欲不振が認められる患者さんの予後の悪化のスピードは他の肺がん患者様と比較し、速いように感じていましたが、嘔吐や味覚異常を伴わない食欲不振に対し薬剤提案も難しく、苦渋しておりました。2021 年 5 月にはがん患者の食欲不振の原因となるがん悪液質の国内初の治療薬としてエドルミズ錠が承認されましたが、承認当初は国内の導入症例数も少なく、効果や副作用が未知数であることから、積極的な医師への提案に至っておりませんでした。そこで、先輩の先生方の後押しもあり、エドルミズ錠の効果について調査を行うこととしました。

調査は電子カルテより後方視的に行いましたが、限られた時間内で正確に情報を取得することに苦労いたしました。また、調査の方向性に迷走することもありましたが、先輩の先生方のアドバイスや先生方が紹介して下さった栄養や食欲不振に関する勉強会や文献を参考に調査を完遂することが出来たとともに、食欲不振についてより一層知識を深めることが出来ました。対面で発表できないのは大変残念でしたが、先輩の先生方のお力添えのお陰で発表までこぎ着けることができ、さらには優秀賞を頂きとても嬉しい気持ちでいっぱいです。

調査より、がん悪液質早期でのエドルミズ錠の導入が重要であるという結果が得られましたが、実際は投与基準を満たしているにも関わらず、エドルミズ錠の導入に至っていない症例が散見されます。投与基準が複雑であることが理由と考え、電子カルテの薬剤指導記録に、投与基準のフォーマットを作成し、薬剤師より積極的な介入が出来るよう現在試行錯誤しております。今回の調査結果を患者さんに還元出来るよう今後も努力していきたいと思います。

最後になりましたが、お忙しい中でご指導いただいた薬剤部の先生方、本学術大会の運営に携わって下さった先生方にこの場を借りて感謝申し上げます。

今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

第 17 回近畿国立病院薬剤師会学術大会 受賞報告

舞鶴医療センター 多田 純平

令和 4 年 7 月 9 日に開催の近畿国立病院薬剤師会学術大会に参加いたしました。今回、「当院における抗がん剤の曝露対策について」というテーマについて発表し、特別賞を受賞することができたためご報告させていただきます。

私は令和 3 年 4 月に入職し、今年で薬剤師 2 年目となりました。新型コロナウイルスの影響により、学生時代は発表する予定であった学会が中止となったため、今回は私にとって初めての発表の場となりました。限られた時間の中での準備はとても大変でしたが、準備から発表までの過程は多くのことを学べる貴重な機会となりました。

今回の学術大会では現状の曝露対策について、対策が確実に行えているか調査した結果と改善策について発表しました。私が発表で特に意識したのは自分の伝えたい内容を明確にするということです。発表用資料を作製している際、話したいことがいろいろ思い浮かび、思いのまま書き込んだことで内容がブレてしまい、何を伝えたいかが不明瞭な内容になりました。薬剤部の先生方からご助言をいただき、資料は一番伝えたい内容を明確にしてシンプルに作成し直すことで、相手に伝わりやすくなると学びました。

準備当初はわからないことが多く、不安が強かったのですが、資料の作成や発表の練習に付き合ってくださった先生方のおかげで無事に発表まで結ぶことができました。ご指導いただいた先生方には深く感謝致します。

今回の発表を通して学んだ事を今後の業務や研究、発表活動に活かせるように努めてまいります。

第 17 回近畿国立病院薬剤師会学術大会 参加報告

やまと精神医療センター 今本 京大

令和 4 年 7 月 9 日に開催された第 17 回近畿国立病院薬剤師会学術大会に参加させていただいたため、ご報告致します。開催方法は COVID-19 の感染対策のため Zoom を利用した Web 開催となりました。2 つのグループに分かれ、計 14 名の先生方が口頭発表され、最後に 2 名の先生方から全体講演として「論文の経験談について」というテーマでお話いただきました。私にとって他施設での取り組みや論文に対する取り組み方を学ぶ機会となり、とても有意義な学術大会でした。

今大会では優秀賞として「当院におけるアナモレリン塩酸塩の使用状況について」、特別賞として「当院における抗がん剤の曝露対策について」が選出されました。また、選出された薬剤に関する取り組みだけでなく、患者への介入、オンラインの活用、多職種連携など幅広い内容の演題がみられました。私はこれらの演題を拝聴し、様々な取り組みがあることを感じる一方、自分に出来ることは何かを考えさせられました。さらに、薬剤師の業務が拡大しつつある今、活躍できる場面が増えると同時に新たに直面する問題もあります。そのため、今大会のような情報を発信する場は各病院で活かせる情報を共有できる場でもあるため、大切な機会だと感じました。私も薬剤師として介入できることを模索し、情報発信、さらには論文化に繋がられるよう取り組んで参りたいと思います。

コロナ禍で対面が難しい中、オンラインを活用し、学術大会開催に向け、ご尽力いただいた先生方をはじめ、情報発信に努めていただいた先生方、日々の業務がある中で準備していただき、心より感謝申し上げます。

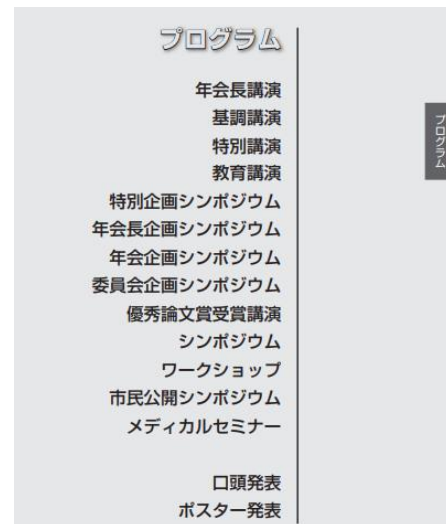
「第 15 回 日本緩和医療薬学会年会」参加報告

神戸医療センター 永井 詩織

2022 年 5 月 14 日・15 日(オンデマンド配信:5 月 14 日～6 月 21 日)にオンラインで開催されました、第 15 回 日本緩和医療薬学会年会に参加致しましたので報告させていただきます。

当年会は当初熊本県にて開催される予定でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大状況をふまえ、オンラインでの開催に変更となりました。今回のテーマが緩和医療薬学の成熟を目指す一病院・薬局・アカデミア連携のさらなる実践であり、薬薬連携や病診薬連携、地域連携、多職種連携等、医療従事者間や施設間の連携についてのシンポジウムが多かったです。配信にてさまざまなシンポジウムを拝聴しましたが、その中で緩和薬物療法認定薬剤師審査における優秀症例の先生方の実際の介入について学ぶことができるものがあり、患者さんに生じる問題点に対し薬剤師としてどう考察し介入をされたのか、大変勉強になりました。また、医療麻薬の適正使用についてのシンポジウムでは、がん患者だからと言って術後の創部痛や化学療法の副作用である手足のしびれに強オピオイドを処方され、オピオイド依存に陥ってしまったといった症例の紹介があり、常にその処方は適正かどうか確認をする必要性を再認識致しました。

学んだことを今後の業務に活かしていきたいと思います。



趣味のページ

京都医療センター 稲田 顕慶

南和歌山医療センターの中田賢先生よりバトンを引き継ぎました、京都医療センターの稲田顕慶です。私は薬剤師歴7年目、国立病院機構4年目で、中田先生とは大学時代の同期に当たります。近畿中央呼吸器センターでも一緒に勤務しておりました。

私の趣味ですが、正直なところ現在趣味という趣味がない！というのが現状です。学生時代はフットサルサークルに所属していたこともあり、近畿中央呼吸器センターで勤務しているときは、多職種で集まってよくフットサルをしていました。しかし、コロナの流行に伴いその機会を奪われている現状です。コロナが収束すれば京都医療センターでも参加者を募って開催したいものです。



そんな趣味のない私ですが、趣味に近いものは読書です。読書といっても主に読んでいるのは漫画と参考書です。漫画は学生の頃からよく読んでいました。漫画のジャンルには特に拘らず、面白ければ読んでいます。これは読んだほうがいい！これは面白い！というおすすめの漫画があればぜひ教えていただきたいです。



さて、参考書と書かせていただきましたが、真面目で勤勉なわけでは決してありません。自分の興味ある内容の参考書を見つけたら 暇なときに読むくらいです。ちなみに、今読んでいる参考書は『ほぼ初めての心電図』です。以前から心電図に興味はあったのですが、いつかは勉強しようと後回しになっていました。今年の5月ごろに購入してまだ半分しか読んでいませんが気長に読むつもりです。読み物としてのいい参考書があればご教授いただきたいです。

最後に、これも趣味とまではいきませんがお酒は大好きです。ビールに日本酒、ウイスキーにワインと、とりあえずなんでもいけます。なかでも日本酒とウイスキーが好きで、日本酒であれば飲みごたえのある銘柄、ウイスキーであれば、癖のあるものを好みます。早くコロナ禍が収束し以前のように気兼ねなく飲みに行ける日を心待ちにしています。

次のバトンは奈良医療センターの佐竹先生にお渡しします。佐竹先生は、大学の後輩になります。佐竹先生、どうぞよろしくお願いします。

編集後記

- ♣ 猛暑日が続きますね。体調崩されていませんか。まだまだマスクを外せない日々ですが、冷たいアイスと美味しいビールで暑い夏を乗り切りましょう♪
- ♣ どちらの病院でも、今はコロナ対応に追われているかと思います。コロナ対応に追われているだけでなく、様々な薬の出荷調整により円滑な業務の遂行が難しい状況となっていますね。何かよい対応を取られている施設はありますか？ぜひ共有して欲しいです！
- ♣ みなさんは、どんなストレス発散方法がありますか？私は、バレーボールの試合を見てストレス発散します。サーブやスパイクを打って得点を取ることももちろんですが、相手の強いスパイクをレシーブできる事にも爽快感が生まれます。皆さんのストレス発散方法を教えてください！
- ♣ まだまだ皆での交流の場が設けられず対面が難しい状況です。その分、皆さんに少しでも楽しく読んでもらえるように、会誌から色々な情報を発信していきたいと思っています。

(N.T.)

近畿国立病院薬剤師会会誌

第七十一号 令和四年八月発行

発行元 近畿国立病院薬剤師会事務局

神戸市須磨区西落合 3-1-1

(独立行政法人国立病院機構神戸医療センター薬剤部内)

発行人 会長 本田 富得(神戸医療)

編集 広報担当理事 別府 博仁(奈良医療)

広報委員 壺阪 直子(兵庫中央)

細田 敦規(奈良医療)

野田 拓誠(舞鶴医療)

清水 宏太郎(敦賀医療)